

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。  
よきリーダーに、よき上司になるために。



**嶋津良智** リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第12回 部下育成は待たされることの連続

上司にとって一番必要な能力は「我慢」。つまりは「見守る力」ではないかと思えます。部下の成長は待たされることの連続だからです。

ある時、子供と買物に出掛けました。まだ小さいため、ちよこまかちよこまか、あつちに行き、こつちに行きを繰り返しながら歩きます。

その間、子供は、大人にしてみるとよく分からない赤く光る電球や、道端に落ちていた石ころなど、何か重大な発見したかのようにあつちこつちに足を運びます。

本来自分一人であればもの5分で歩ける距離に、

30分くらいかけて歩くことになるので、考え方を考えれば、非常にイライラする話です。

しかし、子供はこの短い距離を長い時間かけていろいろなものに触れながら、勉強しているのです。見守る力のない大人はすぐに抱っこしたり、「速く歩きなさい！」とでも言って、子供なりに楽しんで勉強している大切な時間を奪ってしまいます。

今回、なぜこんな話をし

たのかと言いますと、わたしはセミナーでよく、もしかしら上司にとって一番必要な能力は「我慢」かもしれないという話をします。「見守る力」ということです。

成長の機会を奪わない

上司という立場の人は、それなりの経験や実績を積んできているので、部下の仕事振りを見ていると「いや〜そうじゃないんだよね〜」とそこで言うたからだめじゃんとか叫びたくなるような場面が多々あることでしょうか。

しかし、仕事を覚え、能力を磨いていくのに必要な

十月十日待たされ、笑うのを待たされ、ハイハイするのを待たされ、しゃべるのを待たされ、歩くのを待たされるなど、そもそも待たされることの連続です。

同じように部下を持つ上司になったら部下の成長の過程では、待たされることの連続なのです。

非常に効率を求める今の企業の中で、相反することをしなければならぬのが人の教育ではないでしょうか。

人を育てるのに魔法はありません。こういつた日々の地道なコミュニケーションが、人を育てていくのではないかとわたしは考えます。(記事協力・A.M.A.X)

リーダーになるツール  
役立つ書籍や道具などを紹介



『30代までに鍛えておきたい仕事の筋トレ』  
気合い、根性といった精神論や目先の成果をあげるためではなく、将来、確実に大きな成果を得る。時間、お金、コミュニケーションなどについて具体的な「筋トレ」でチャンスが到来したとき、自由自在に動けることを目指す。(大和書房/1365円)